

GDP と コーピ

概要

- 2011年における上位40カ国の一人当たりの年間コーヒー消費量データと同年のGDPのデータを照らし合わせ関係性があるかを求める。
- 調べようと思った理由は、業種に関わらず働いている人はコーヒーをよく飲んでいるイメージがあり、コーヒーに入っているカフェインには眠気を減らす効果があるとして有名である。それならばコーヒーを飲んでいると作業効率が上がり結果としてコーヒーを飲んでいる方がGDPが高い傾向にあるのではないかと思ったから。

確認する方法

- グループ分けを行い,そのグループの特徴を判断しコーヒーの消費量とGDPとの関係性が見られれば論成立と考えられる。
- クラスター分析を行いグループ分けを行う。

データについて

国名	年間消費量(kg)	GDP(10億\$)
1. ルクセンブルク	24.9	58.75
2. フィンランド	12.1	273.93
3. ノルウェー	9.5	498.16
	~	
	~	
	~	
38. ニカラグア	2	9.76
39. ハイチ	2	7.52
40. コロンビア	1.7	336.37

クラスター分析

- 分類分けを行い,分けられたグループの特徴を読みそこに関係性があるかを確認する。
- 望ましい例:(“コーヒーの消費量が高い”, “GDPが高い”)
望ましくない例:(“コーヒーの消費量が低い”, “GDPが高い”)

結果

[1] "ルクセンブルク" "スロベニア" "スロバキア" "ブルガリア" "ドミニカ共和国"

[1] "ノルウェー" "スイス" "スウェーデン" "ベルギー" "ポルトガル" "オランダ" "ポーランド"

[1] "フィンランド" "デンマーク" "ギリシャ" "ベネズエラ" "チェコ" "アイルランド" "ルーマニア" "コロンビア"

[1] "日本"

[1] "ホンジュラス" "マルタ" "ニカラグア" "ハイチ"

[1] "ドイツ" "ブラジル" "フランス" "イタリア" "イギリス"

[1] "アメリカ"

[1] "キプロス" "コスタリカ" "リトアニア" "エストニア" "ラトビア" "エルサルバドル" "エチオピア"

評価

- コーヒーの消費量:普通 GDP:真ん中
- コーヒーの消費量:やや高い GDP:高い
- コーヒーの消費量:普通 GDP:高い
- コーヒーの消費量:やや少ない GDP:かなり高い
- コーヒーの消費量:少ない GDP:低め
- コーヒーの消費量:やや高い GDP:かなり高い
- コーヒーの消費量:普通 GDP:かなり高い
- コーヒーの消費量:やや少ない GDP:低め
- コーヒーの消費量:やや高い GDP:高い

※ コーヒーに関してはは上位40位なので全体的に見ると高いことにはなるが…

結果

- 割と関係性があるように見受けられる
- 正確な結果を得るには全ての国のデータが必要だと感じた